小中学校耐震診断結果と今後の対応について

市教育委員会では、近い将来に高い確率で起こることが想定される宮城県沖地震などに備え、児童生徒が日常生活の大部分を過ごし、災害時には避難所にもなっている市立小中学校施設の耐震状況について調査を進めてきました。

このたび、その概況がまとまりましたので、その結果と今後の対応についてお知らせします。

耐震診断は、平成7年の阪神・淡路大震災で昭和56年（建築基準法改正）以前に建築された建物に大きな被害が出たことなどを踏まえ、同年以前に建築された建物（木造を除く）について実施したものです。

その結果、文部科学省で補強工事が必要としている、構造耐震指標（IS値）が0・7未満の学校施設は、校舎で17施設、屋内運動場で18施設ありました。

市では補強工事が可能な施設について、基本的にIS値の低い施設から補強工事を実施することとし、0・3未満の施設については平成20年度、0・3～0・7未満の施設についてはおおむね24年度を目標に、各学校の耐震補強に計画的に取り組んでまいります。

また、IS値が特に低い萩荘中学校第2屋内運動場、東山中学校屋内運動場については、安心度などを総合的に勘案し、他の代替施設を利用して教育活動を展開してまいります。

◎問い合わせ先
教育委員会教育総務課
☎㉕6592

耐震診断により補強が必要とされた学校

IS値		0.3未満		0.3～0.5未満		0.5～0.7未満	
小学校（41校）	校舎	1	一関	8	山目、中里、涌津、千厩、磐清水、松川、折壁、薄衣	3	大原、田河津、門崎
	屋体	3	山目、老松、磐清水	9	本寺、日形、大原、千厩、奥玉、長坂、田河津、松川、折壁	0	
中学校（19校）	校舎	1	川崎	1	東山	3	大原、興田、室根
	屋体	3	萩荘（第2）、東山、川崎	1	萩荘（第1）	2	興田、猿沢

IS値　建物の耐震性能を表す指数で、地震に対する建物の強度、建物の形状やバランス、経年劣化の状況などから算出します。

建築基準法では0.6で耐震基準を満たしますが、文部科学省では、学校が避難施設にもなっているなどの建物の重要性から、これを0.7に引き上げています。

近い将来想定される宮城県沖地震（震度5強）との関係でみると、
◇0.3未満…小破（中破）相当の恐れ
◇0.3～0.5未満…小破相当の恐れ
◇0.5～0.7未満…軽微な被害の恐れ
となっています。

真柴第2工業団地土地売買契約締結

㈲一関電子が新工場建設

プリント基盤やPOS（販売時点情報管理）システム端末機など、電子部品の製造、組み立てを行う有限会社一関電子（本社市内萩荘、資本金300万円、近藤廣子代表取締役）は、真柴第2工業団地へ新工場を建設することとなり、市との土地売買契約調印式が6月8日、市役所本庁で行われました。

調印式には近藤代表取締役、浅井市長、佐々木時雄市議会議長と同社、市関係者らが出席し、近藤代表取締役と浅井市長が、土地売買契約書に調印しました。

平成7年創業の同社は、業務拡大に伴って14年、真柴第2工業団地内の市営貸し工場に第1号として入居し、以降本社工場との2工場体制で操業しています。受注が堅調な主力製品に加え、新たに小型風力発電機製造などの大型受注を得たことから、2工場を統合し、生産能力増強と効率向上を図るための新たな工場を建設することとなり、今回の契約調印となりました。

調印後、浅井市長は「地方経済が回復の緒に就いた中、御社の英断は市の経済活性化に大いに貢献いただけるものと確信している」と歓迎。近藤取締役は「多くの方の励ましを得て本日を迎えることができたことに感謝いたします」とあいさつしました。

同社の新工場は、今回取得した4145平方㍍の敷地に鉄骨造り平屋建て、床面積993平方㍍の工場を整備し、10月の操業開始を予定。従業員は、現在の20人体制に新規採用を加えた30人程度でスタートし、最終的に40人程度と計画されています。

今回の契約で、真柴第2工業団地（全5区画）は残り1区画となりました。貸し工場は新工場操業による移転後、新たな入居者を募集することとなります。

土地売買契約調印後握手を交わす（左から）浅井市長、近藤代表取締役、佐々木議長

地球ピカピカ大賞

厳美小学校

厳美小学校（及川智子校長・児童133人）は、環境美化に優れた功績があった小学生の活動に贈られる第20回「地球ピカピカ大賞」（日本石鹸洗剤工業会主催）を、全国11校の一つとして受賞しました。

表彰式は6月5日、同校体育館で行われ、全校児童が出席する中、阿部傑児童会長（6年）ら児童代表に、同工業会齊藤和巳広報委員から表彰状などが手渡されました。

及川校長は「皆さんのお父さん、お母さんや先輩の時代から受け継ぎ、地域の皆さんとみんなでいただいた素晴らしい賞です。これからも環境を大切にしていきましょう」とあいさつ。阿部会長が30年以上続けられてきた活動を、これからも続けていきたいと決意を述べました。

同校は昭和52年から年2回、厳美渓畔の清掃活動を行い、また最近は校内のプールや床の清掃に重曹やクエン酸を使用するなど、地球環境に配慮した活動を全校で行っています。

全校児童を代表して表彰状などを受けた（左から）児童会長の阿部君、同副会長の佐藤英君（6年）、同議長の佐々木朱音さん（同）

千田典文さん

環境大臣表彰を受賞

「若いときから生物と公害の調査研究を続けてきました。今後もライフワークとして取り組んでいきます」と語る千田さん

千田典文さん（53）＝幸町＝は、地域の環境保全および地球環境美化に関する特に顕著な功績により6月11日、環境大臣表彰を受賞しました。

千田さんは、昭和57年から市や保健所が主催する環境セミナーや水生生物による水質調査、自然観察会などのボランティア講師を務め、地域の環境に対する教育や啓発活動に積極的に取り組まれています。

また、県環境アドバイザーを務められたほか、現在は市環境審議会委員を務められ、環境行政の推進にも大きく寄与されています。

㈳日本善行会春季善行表彰

―市内から2団体1個人―

青少年善行・公共生活への貢献

一関修紅高等学校インターアクトクラブ

同クラブは昭和42年、県内初のインターアクトクラブとして設置されました。以来、陸上競技大会や一関国際ハーフマラソン、献血キャンペーンなどの地域事業のほか、市障害者福祉まつりや高齢者グループホーム、障害児との交流キャンプなどの福祉事業にボランティアとして数多く参加しています。こうした長年の活動が「公共生活の進展に奉仕し明るい社会環境づくりに尽くした」と高く評価されました。

現在は23人が在籍してにぎやかに活動しています。そのまとめ役を務める部長の船山恵里さん（3年）は「ボランティアを通じて人の役に立つことを目標として、日ごろ活動しています。それがこのような賞につながり、とても光栄に思っています。これからも地域の活動に積極的に参加して、一関をもっと知る活動をしていきたいです」と、受賞の喜びと決意を、晴れやかな笑顔で語ってくれました。

活動が評価され全国表彰を受けた同クラブの皆さん

青少年善行・社会福祉

千厩高等学校生徒会

生徒を代表して受賞の喜びと決意を語ってくれた（左から）菅原さん、佐々木さん、佐藤さん

平成14年に千厩・千厩東両高校が統合して新たな歩みを始めた同校ですが、生徒会のボランティア活動は統合以前から伝統的に行われてきました。現在は病院、施設での介護奉仕やミニコンサート、千厩駅前の花壇の手入れ、清掃などに一生懸命取り組んでいて、こうした活動が「社会福祉に貢献し多くの人びとに喜びを与えたと高く評価されました。

生徒会長の佐々木愛さん（3年）は「先輩方からずっと続けてきた活動が認められてうれしいです。これからも自発的に地域の人たちと交流し、活動を続けていきたいです」と喜びを語り、同会計の菅原明日香さん（同）は「皆さんの『良かったよ。来年も期待しているよ』という声が励みです」、インターアクトクラブ会長の佐藤千雪さん（同）は「周りの人たちに支えられている活動。『ありがとう』の言葉が何よりうれしいです」と、それぞれにこやかに語ってくれました。

緊急時貢献・人命救助

千葉　茂さん（48）＝萩荘＝

昨年9月、市内で建物火災に遭遇した際、身の危険を顧みず黒煙の中を進入して、2人の男性を救出しました。